

最後！倫理です。梅雨に入らうです。今週の倫理を最後まで読んでみて下さい。何にかヒントがあるかも？

草野 幸世 著

2022. 6. 11～6. 17

今週の

倫理

6月のテーマ | 万象肯定

1285号

コロナ禍に見舞われた当初、飲食業界にとつて厳しい状況が続きました。

Aさんは、居酒屋を一店舗、接客を伴う飲食店を三店舗経営していました。汗水たらして育てた我が子のような店です。好調だった業績は、コロナ禍によつて二進も三進もいなくなりしました。

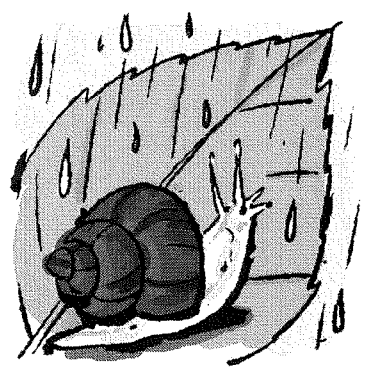
ある日、経営者モーニングセミナーで聞いた「苦難は幸福の門」という標語を思い出しました。そして、「これがよい」と苦難を前向きに捉えようと思い立ち、「苦難よ、ありがとう。コロナよ、ありがとう」と口にする実践を始めたのです。

しかし、口に出そうとしたのに声が出ないのです。「ありがとう」という言葉を体が拒絶していたのでしょうか。やっとの思いで口にする、なぜか涙がこぼれてきました。

毎日、車の中で「ありがとう」と繰り返している、次第にその言葉が自分を励ましてくれるようになりました。勇気と自信が湧いてくるように感じました。

そんなある日、以前から業態転換を図ろうと考えていたことを思い出しました。これまでの経験から、Aさんは居酒屋経営のほうに性に合っていると感じていたのです。具体的には、接客を伴う飲食店から居酒屋への業態転換です。コロナ禍の中で忘れていた願いでした。

以前は、三店舗に利益が出ていたため、居酒屋へ転換することへのためらいがありました。しかし、現在はそもそも利益がない状況です。これを機に、働くスタッフへ



心の姿勢が道を拓く

説明すれば理解を得られるのではないかと思いました。

早速、三店舗の店長と話をすると、一店舗はそのまま店長に譲ることになり、他の店舗は吸収して一つの居酒屋として経営することになりました。

居酒屋を運営するにあたって、良い出会いに恵まれました。厨房を任せたいと思えるスタッフが現われたのです。現在、Aさんはコロナ禍の中でも元気いっぱい接客しているといいます。

「これがよい」という、現状を肯定する言葉は、頭では理解することができても、心が伴わないことも多いものです。Aさんは口に出すことで、初めて現実を肯定することができました。前を向き、心が先行した時に「今」が良い機会であることに気が付いたのです。

車の中でこぼした涙は、感謝の涙でも、喜びの涙でもなかったでしょう。我が子のような店舗の厳しい経営状況を受け止めた悲しみの涙だったのでないでしょうか。

苦難には自分ではどうすることもできないものもあります。苦難の意味を見出すことが、すぐにはできないかもしれませんが、しかし、振り返ってみると、当時は前向きに捉えることができなかったとしても、後から考えれば、「あれがよかった」と思えることもあるものです。

「これがよい」。この言葉と心の姿勢は、苦難と真正面から向き合う心を養い、自身を正しい道へと導いてくれることでしょう。